



## クスリの恐ろしさ

太刀川 弘和 (保健管理センター  
人間総合科学研究科疾患制御医学専攻 講師)

最近、有名な元アイドル歌手や人気俳優が、覚せい剤やMDMAなどの非法薬物（以下、クスリと呼びます）に絡んだ事件で逮捕され、社会に大きな衝撃を与えています。連日マスコミが、クスリを使用した当人の実生活と華々しい芸能生活とのギャップを興味本位で報道しています。しかし、人はクスリにどうしてはまるのか？ ころと体にどのような問題をひき起こすのか？ なぜ規制されているのか？ といった点を冷静に伝えている記事は少ないと思います。また、これらのクスリの使用は最近、暴力団関係者よりもむしろ、学生や主婦など一般人に広がってきています。他大学の学生が大麻所持で逮捕されたことも記憶に新しいところです。つまり、クスリの問題は他人事ではないのです。そこで今回は、クスリのもたらす深刻な問題について率直にお話したいと思います。

### 1. 薬物乱用、薬物依存とは

法的に規制されている薬物を使用することを「乱用」、その薬物を使用することをやめられないことを「依存」といいます。代表的な規制薬物である覚せい剤は、昭和26年の覚せい剤取締法により非法薬物となりました。なぜ規制されるようになったのか？ という点、その乱用により本人だけでなく社会に大きな危害が生じたからです。つまり単にそれが反社会的な集団の資金源となるといった社会秩序の問題だけでなく、多くの乱用者が依存に陥り、その乱用者の周囲がまた乱用者になり、社会生活ができなくなった人が急増したことに危機感を感じて法律が制定されました。この法律の制定により、覚せい剤の乱用件数は一旦減少しました。しかし何度かのピークを経て再び乱用件数は増加しており、乱用薬物の種類も、有機溶剤、大麻、コカイン、MDMAなど次々に増えています。新たな問題薬物ができると規制の法律を作るといった形で規制と乱用がいたちごっこになっています。また法的な規制が強調され、その後の症状に対する対策がわが国では遅れています。

### 2. クスリの恐ろしさ

全てのクスリは程度や内容の違いこそあれ、共通の効果を持っています。まず、急性中毒の効果で、ここには今までにない気持の昂揚や異常な感覚が生じます。からだには、自律神経の興奮や心臓、肝臓の毒性が生じ、人によっては1度の使用でもいのちに関わる事態になることがあります。一般に人がクスリを使用するのは、この急性中毒の効果を経験したい好奇心なり欲求がはじまりです。ところが恐ろしいのはここからで、一度でも使用すると、その急性中毒の効果を脳が学習してしまい、もっとクスリがほしいという強い欲求が生じます。これは脳が学習したことなので、本人の意思とは無関係です。サルを用いた実験では、一度覚せい剤を注射されたサルがその後数千回にわたり覚せい剤を要求することが確認されています。次に、何度かクスリを使用すると脳がそのクスリに慣れてしまい、同じ急性中毒の効果を経験するために、より多くのクスリを必要とするようになります。これを「耐性」といいます。加えて、クスリの効果がきれると、強い不安、ゆううつといったところの症状や、全身の震え、発汗、けいれんなどのからだの症状、いわゆる「離脱症状」が出ます。この「耐性」と「離脱症状」により、クスリを使用し続けなければ精神の安定を保てなくなり、依存症が成立します。一旦依存症になるとクスリの使用が生活の中心になります。クスリを手に入れるためには、家族や友人にうそをつこうが、売春しようが借金しようが、何のためらいもなくなります。もともと強い意志があろうが、社会的地位が高かろうが、子供がいようが、そんなことは関係ありません。逮捕されても関係ありません。クスリを一時的に使えなくなるだけのことです。クスリの再犯率は約9割と極めて高いことが知られていますが、これは社会的な制裁が脳の生物学的な欲求を抑止するには十分な効果がないことを物語っています。使用して数年すると、慢性中毒になります。とうとう脳が壊れて、幻覚や被害妄想が出現します。また物事を遂行する能力が低下します。こうなるとはや、



ひとりで悩まず ほけかん 保健管理センターへ

保健管理センター受付 029(853)2410  
学生相談室受付 029(853)2415